



私のお念仏

宮嶋 千秋

あけまして おめでとうございます。

整理の出来ないまま、また新しい年を迎えることになりました。

「死」ということを全く考えていないから、年が明けて正月を迎えることが極く当り前のことであるかのごとくふるまっております。

「しあわせ」とはどんなことなのだろう。ひよつとしたら一生わからずに終るのではないかとおもいます。

「生かされている」数多くの条件(縁)のあること、自然のめぐみを無限にいたゞいてること、これも実は「ご恩」であることはもちろんであります。こんなことよりもまだまだ大きいのが阿弥陀如来さまのお慈悲お知恵のお光であると教えられます。

たとえば、太陽さんの光も熱も、なくてはならぬもので有難いのですが、冬になると寒い夏になるとあついあついと不足をいわなければなりません。雨でももちろん有難いものなのですが、降り過ぎれば困り降りなければまた困ります。空気もなくてはならぬし有難いものでもあります。風になり台風になるとほんとに困りはててしまいます。ほかにもいろいろあると思えますが、いわゆる「自然のめぐみ」には限界・かぎりがあります。限界をこえたら、自分で防いだりまた避けなければなりません。それにひきかえ如来さまの光はすでに私のところのなかに入つてくださっております。自分の思うまま動いているままがお光のなかの私であります。

阿弥陀さまは、こころのなかに、厳しくおもいかえすところをお育てくださり、外からは、お慈悲のなぐさめ。智慧の、厳しい父のような光。慈悲の、母のようななつみとる光。しかもその光には限界もかぎりもありません。

今年も、照しつゞけてくださる如来さまに合

して、力強く生きさせていただきましょう。いつまでたつても 未完成 完全に生きさせていただくのぞみをおおきいこと。



近畿地区仏教婦人大会というところで、どんな勉強かどんなお話が聞けるのかと心はずませながら、豊岡(城崎組)・出石組の方々とつしよにつれていっていただきました。会場には、近畿各地から千人近い方々がみえておりました。

「真実を今しか」という大会テーマでした。藤田徹文先生のおはなしが身にしました。そのなかで思い考えさせられたことは、「真実(たしかなもの)」とは、「どんなことがあつても私をささえるもの」である。そしてそれはまず、自分しかないということ。ほんとのことだと思えます。

しかしその自分も、若い若いと思つてがんばつていても、体には老がしのびよります。この私の健康もいつまでも続かない。でもそういうあやふやななかで、精いつばい生きようとする私を、ささえてくださるのが、南無阿弥陀仏のお念仏であることを聞かせていただきました。

そのお話を聞きながら、さて今のこと私はどうだろうかと、何も出きていないことの恥かしい思いと、これからは一回でも多く念仏に掌を合わす機会を多くもとうと思つた次第です。仏婦活動のビデオも見せていただきました。

近畿ブロック仏婦大会に参加して

十二月十五日

正法寺

山田 数雄 様

「法輪会」の皆様へ

藤川 貴恵

新しい年一九八七年の幕あけです。

年が変るそのたびに、今年こそはよい年であるようにと念じ念じて、すでに五十回六十回の年を過ぎてまいりました。

思えばそのままだが実は、二度とくりかえすことのできない、お浄土への大切な道中であつたのだと、いまはじめて気づかされていただくところでございます。

さて、昨年十二月三日、正福寺さまを会場にして、「出石組法輪会」(連研修了者の会)の秋の研修会がございました。

ご案内のしかたにも確かに問題もあり、また時期的にも適当とはいえない面もあつて、出席者の多くはなかつたことは残念なことではございました。ご講師小玉大誠先生の「テングサの花」と題されたご講話は、先生みずからの体験の中からのお話であつただけに、心深くあじあわせさせていただきました。

また、副組長玉岡先生の祝辞に、修了者の云(「法輪会」)のあり方と、その会員の、門徒推進員としての、組やそれぞれの寺それぞれに村における活動のなかから真の意味での「御同朋の社会」がうまれてくるのだと、私たちの活動に対する期待を細々と話してくださいました。

そのお話を聞きつゝ、今の私たちの現実、ただただ恥かしいばかりでございました。私たちは、連研で学習させていただいたこと、親鸞聖人のおひらきくださったこの浄土真宗のみ教えと念仏者門徒としての生活上の作法を、も

一度も二度も問いなおし聞きなおしてみるための法座活動に、積極的に参加することからはじめて、聞法者としてのほこりとよるこびを、一人でも多くの人々にひろめる推進員として生きていかねばならないと思つた次第です。

さて、「勝林寺法輪会」も、燈(ひ)をつけたものの、まだ燃えてはおりません。

会のお世話役をさせていたゞいた坂本様も私も共に体調をくずして実動できなかったことがその原因でございます。誠に申しわけないことと深くお詫びいたします。

新しい年になりましたらなるべく早い時期に、みな様と相い寄つて、今後の私たちのことをご相談致し度く存じております。ご協力くださいませ。

とりあえず「出石組法輪会」からの連絡事項のみおとり次ぎいたします。

- 一、「出石組法輪会春季研修会」は三月上旬の予定。
- 二、「会報」を発行します。字数制限なし。内容自由。一月十五日までに西方寺様まで。
- 三、会費、一ヶ年壹千円を集めます。

輪島塗の膳

正法寺の山田健一氏より輪島塗本膳二十人前割を寄付していただきました。大切にながく使わせていただきたいと思つています。

キンカンの甘露煮

★材料 キンカン 5.0.8 砂糖 25.0.8 白ワイン 少々

※作り方

- 一、キンカンをきれいに洗い、縦に六本の切れ目を入れる。
- 二、ひたひたの水でゆがく。湯子でうねいに切れ目から種子を取る。
- 三、それに25.0.8の砂糖と半カップの水を入れ汁気のなくなるまでにつめる。
- 四、おろす前に白ワインを、一ふきさせて火をとめる。

